慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	小学校英語教科書の教師用指導書の特徴
Sub Title	
Author	長谷川, 淳一(Hasegawa, Jun'ichi)
Publisher	慶應義塾大学教職課程センター
Publication year	2023
Jtitle	慶應義塾大学教職課程センター年報 (Annals of the Teacher Training Center Keio University). No.31 (2022.) ,p.19- 25
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10203872-20230831-0019

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小学校英語教科書の教師用指導書の特徴

長谷川　淳一

（桜美林大学）

1. はじめに

小学校英語学習指導要領（平成 29 年告示）により、2020 年度 4 月から小学校 5,6 年生で教科として「外国語」が実施された。それに伴い、2020 年度から検定教科書が使用されている。こういった状況を背景に、文部科学省は 2020 年度から全国で 3,000 人の英語専科教員を配置し、2021 年度も同様の予算が組まれている。しかし、全国で約 20,000 校ある小学校の専科教員ではない一般の教員の中には、教科としての英語指導に不安を持つ者も少なくないと聞く。

英語の学習指導を支える教科書に関して、小串（2011）は、その著書『英語検定教科書 制度、教材、そして活用』のはしがきの中で、「理想とされる教科書とは、教員の指導力を最大限引き出しつつも、教員の指導力に大きく左右されることなく一定の教育成果を保証するようなものということになるのであろう。しかし、そのような理想に近づくのは容易なことではない。教員の指導力を引き出すには、教材は学習指導の方向性を示すことに止め、あとは教員の独創性や工夫に任せるという編集方針が必要であろう。[1]」と述べている。その学習指導の方向性を示す教科書の教師用指導書には、教科書作成者の意図・言語指導観・教授理念・教科書の使用法などが明示されているため、教員が授業の創意工夫をする際に、教師用指導書を参考にすることも考えられる。

そこで、本稿では、2020 年度版小学校英語教科書の 7 種類の教師用指導書に注目し、それぞれの特徴を明らかにする。

2. 調査

2.1　調査の目的

教員が教材研究に活用することが考えられる 2020 年度版小学校英語教科書の教師用指導書の特徴を明らかにする。

2.2　調査の対象

調査の対象となった 7 種類の小学校英語教科書の教師用指導書は、以下の通りである。

Here We Go! 5・6	光村図書（以下 *HW* と表記）Teacher's Book
Crown Jr. 5・6	三省堂（以下 *CJ* と表記）Teacher's Book
New Horizon Elementary English Course 5・6	東京書籍（以下 *NH* と表記）教師用指導書　指導編
Junior Total English 1・2	学校図書（以下 *JT* と表記）朱書編
Junior Sunshine 5・6	開隆堂（以下 *JS* と表記）Teacher's Book
Blue Sky elementary 5・6	啓林館（以下 *BS* と表記）Teacher's Manual 朱書
One World Smiles 5・6	教育出版（以下 *OW* と表記）教師用指導書　授業編

なお、教師用指導書は各教科書会社によって様々に分冊にされているため、授業運営上の基礎となる指導書のみに限定した。また、5 年生用と 6 年生用は、相互参照しながら表にまとめた。表中の各項目において、全ての課に該当する場合は〇、全ての課に該当しない場合は×、全ての課ではないが該当する課もある場合には△で記した。

2.3　調査の方法

2020 年度版小学校英語教科書の教師用指導書の特徴を以下の 5 つの観点から表にまとめ、概観する。

(1) 内容構成
(2) 特色
(3) 共通記載事項
(4) ティーム・ティーチングへの配慮事項（英文記述）
(5) 評価への配慮事項

2.4　調査の結果

(1) 内容構成

表１は、７種類の教師用指導書の内容構成における取扱いの有無を示したものである。取扱いの量的な相違はあるものの、単元構成の説明、場面の設定、単元目標の提示、指導の流れ、英語の物語の指導手順、歌・チャンツ、付録の説明の項目は、全ての教師用指導書で記載されている。付録とは、教科書の巻末にある英語学習の参考になる資料のことである。それに対して、評価・学級経営のポイント・他教科との関連・スモールトーク（先生や児童同士の短い会話）の項目は、教師用指導書によって取扱いに差が生じている。特に、評価に関しては、教師用指導書作成時に国から評価に対する指針が出されていなかったことがその主な要因と考えられる。また、前述の通り、教師用指導書は各教科書会社によって様々に分冊にされているため、調査対象の教師用指導書以外の指導書に評価の記述があることも考えられる。配当時間と目安時間および Can-Do List においては、ほとんどの教師用指導書で取扱いが見られる。

表１　各教師用指導書の内容構成

項目／教科	単元構成の説明	場面の設定	単元目標の提示	指導の流れ	配当時間と目安時間	評価	学級経営のポイント	他教科との関連	スモールトーク	英語の物語の指導手順	歌・チャンツ	付録の説明	Can-Do List
HW	○	△	○	○	○	○	○	×	○	○	○	△	○
CJ	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	△	○
NH	△	○	○	○	×	△	×	○	×	△	○	△	×
JT	○	○	○	○	○	×	△	○	×	○	○	△	△
JS	○	△	○	○	△	×	×	○	×	○	○	△	○
BS	○	△	○	○	△	△	×	×	○	○	○	△	○
OW	○	△	○	○	△	△	○	○	×	○	○	△	×

(2) 特色

表 2 は、教師用指導書の特色と想定される以下の項目に対する取扱いの有無を表したものである。(1) の内容説明と同様に、取扱い状況に多少の差異はあるが、ねらいの説明、指導上の留意点、音声スクリプト、音声情報、Q&A（解答例)、題材情報、クラスルーム・イングリッシュ、教科書の英単語・英文の和訳の項目は、全ての教師用指導書で扱われている。他方、板書例の項目に関しては、2 社の教師用指導書のみ例示が見られる。その他は、それぞれの教科書の特色として顕著な例を挙げた。*HW* の「やってみよう」は、配当時間には含まれない活動であるが、指導のポイントや活動例、発話例が提示されている。*CJ* の「期待したい児童の姿」は、小単元の配当時間ごとに、指導と評価の一体化を示唆する内容となっている。*NH* の「ことば探検」は、言葉と文化に関する情報をいろいろな角度から解説している。*JT* の「Scene の情景とナレーション」では、各課の導入場面をナレーション形式で説明してあり、児童がそれぞれの小単元をリスニングする際の背景知識を提供している。*JS* の「コラム」は、児童に言葉や文化の多様性に気づかせるヒントが述べられている。*BS* の「Did you know ?」は、外国の文化や習慣などを紹介する興味深い内容である。*OW* の「Notes」は、小単元の言語活動を活発にするための手立てが満載されている。

表 2　各教師用指導書の特色

項目 / 教科	ねらいの説明	指導上の留意点	板書例	音声スクリプト	音声情報	Q&A（解答例）	題材情報	クラスルーム・イングリッシュ	教科書の英単語・英文の和訳	その他
HW	△	○	○	○	○	○	○	○	△	やってみよう
CJ	○	○	×	○	○	○	○	○	△	期待したい児童の姿
NH	△	△	×	○	△	○	△	○	△	ことば探検
JT	○	○	×	○	○	○	○	○	○	Scene の情景とナレーション
JS	○	○	×	○	○	○	○	○	△	コラム
BS	○	○	○	○	○	○	○	○	△	Did you know ?
OW	○	○	×	○	○	○	△	△	△	Notes

(3) 共通記載事項

表３は、表１と表２の結果を踏まえて、７種類の教師用指導書に共通に記載されている事項を提示したものである。なお、△の印は、質ではなく、単に記述量の差を示すものにすぎないことは、先の通りである。掲載箇所とは、文字通り、教師用指導書にそれぞれの事項が掲載されている箇所のことである。

表３　各教師用指導書の共通記載事項

項目／教科	教材観	自己意識	相手意識	自国文化の理解	異文化・多文化理解	考える指導	掲載箇所
HW	○	○	○	○	○	○	学級経営のポイント
CJ	○	○	○	○	○	○	期待したい児童の姿
NH	○	△	△	○	○	○	ことば探検
JT	○	○	○	○	○	○	Project Time
JS	○	○	○	○	○	○	コラム
BS	○	○	○	○	○	○	観点別目標
OW	○	○	○	○	○	○	Think

(4) ティーム・ティーチングへの配慮事項（英文記述）

表４は、教師用指導書におけるティーム・ティーチングへの配慮事項（英文記述）の取扱いの有無を示したものである。全体的に、外国人とのティーム・ティーチングを想定した記述内容は見当たらない印象を受ける。寧ろ、児童に対して耳から英語のインプットの量を増やすために、クラスルーム・イングリッシュを含めて、日本人の専科教員が英語で言語活動を進めるような授業設計を前提としている様に思われる。題材を英語で説明している教師用指導書がない代わりに指導事例や具体的な活動例を英語で提示していることからも、そのようなことが推察される。

表４　ティーム・ティーチングへの配慮事項（英文記述）

項目／教科	ねらいの提示	各ユニットの概要説明	題材の説明	指導事例	具体的な活動例	掲載箇所
HW	○	×	×	○	△	一言フレーズ
CJ	×	△	×	○	△	指導の流れ
NH	△	△	×	○	△	Our Goal
JT	×	△	×	×	×	展開の骨子
JS	×	×	×	△	△	教師の指示例
BS	○	×	×	○	△	使用表現例
OW	×	○	×	×	×	単元計画

(5) 評価への配慮事項

表５は、教師用指導書における評価への配慮事項の取扱いの有無を示したものである。評価に関しては、扱っている教師用指導書は見られるものの、*CJ* を除いて、詳細には扱われていないのが現状である。これは、先に述べた様に、教師用指導書作成時に国から評価に対する指針が出されていなかったことがその主な要因と考えられる。また、教師用指導書は各教科書会社によって様々に分冊にされているため、表５で×を記した教師用指導書とは別の分冊の指導書の中に、評価に関する記述が見られる可能性も否めない。次期の改訂版小学校英語教科書の教師用指導書では、全て評価を取扱うことになるであろう。

表５　評価への配慮事項

項目／教科	指導と評価に関する情報	指導計画と評価	評価規準	評価の具体例	掲載箇所
HW	×	×	○	○	評価規準（例）
CJ	○	○	○	○	単元の目標と評価規準
NH	×	×	○	○	評価例
JT	×	×	×	×	×
JS	△	×	×	×	コラム
BS	△	×	×	×	自己評価
OW	△	×	○	○	Notes

3. おわりに

H.Curtain と C.A.B.Pesola は、教材としての目標に関して、以下の様に指摘している。

教材としての目標

(1) その教材もしくは著者のねらいがはっきり示されているか。またそれは自分のところの教科目標と矛盾しないか。
(2) シリーズ全体の範囲と順序がしっかり構成され、明示されているか。
(3) ことばの使い方は真正のものか。学習言語を使う人たちが本当に使う表現か。
(4) どの学年に合う教材か。想定している学年の興味や成熟度に合っているか。[2]

日本の英語教育では、検定教科書の使用が義務づけられているが、検定教科書は、上記の 4 つの観点、つまり学習指導要領に基づく教科目標、体系的に配置された言語材料、コミュニケーションの手段として現在使用されている本物の英語、発達段階に応じた学習内容が組み込まれた教材と言える。教科書を使用するに際しては、冒頭に記したように、教員の指導力を引き出し、学習指導に影響を及ぼす教科書観を意識するためにも、教材研究は不可欠である。教材研究の資料として教師用指導書を参考にするに当たっては、その特徴を把握した上で、状況に応じ、いろいろな教科書の教師用指導書の活用も考えられる。

引用文献

[1] 小串雅則（2011）.『英語検定教科書 制度、教材、そして活用』三省堂 , 4.

[2] Helena.Curtain & Carol Ann Bjornstad Pesola（1999）.（伊藤克敏他訳）『児童外国語教育ハンドブック』大修館 , 288.

参考文献

長谷川淳一（2020）.「小学校英語教科書における題材の取扱い」, 慶應義塾大学教職課程センター『年報』第 29 号 .